

専修大学「情報キャリアデザイン」

社会/ビジネスの進化を支えるDXエンジニア

講師：渡部 真也

マニー(株)取締役 取締役会議長
Bain & Co. シニアアドバイザー
元 (株)日立製作所 執行役常務



1. 講義の背景、狙い

10月3日にネットワーク情報学部3年生全員約230名を対象にした「情報キャリアデザイン」で、オンライン講義を行った。狙いは、キャリアをデザインする、すなわち自分の進路を見つけることであり、社会の第一線で活躍している(きた)講師の講義を中心に構成されている。5月から14回の講義があり、1月からは就職活動が始まるので、学生の真剣さが伝わってきた。技術経営士の会は、小林隆教授(元日立製作所システム研究所)、榮谷昭宏准教授(元NTTコムウェア)とのご縁で2022年から講義の機会を頂き、今年は海野さん、井上さんと私で3コマを担当した。

2. 講義の内容

私は、「社会/ビジネスの進化を支えるDXエンジニア」をテーマに講義をした。システムエンジニアは就職先として最も多い職種とのことだが、視点を広げて最前線の動向として次の様なポイントをお話した。

- Society 5.0、第4次産業革命やデジタル化/DXが地球規模で進展しており、企業や社会は新たなIT/デジタル人材を求めている。ITはバックオフィス部門ではなく、「進化したITでビジョンを実現する」ための戦略的な位置付けに変わってきた。皆さんの活躍の機会も、システムエンジニア、データサイエンティスト、セキュリティエンジニア、プロジェクトマネージャーなど幅広くあるが、何を選ぶにせよ、高いプロフェッショナル性が求められる。
- 事例として、デジタル医療/ヘルスケアの最前線、医療情報の利活用などを紹介した。
- 情報通信技術はすざましいスピードで進歩してきた。半導体の進歩によりコンピュータ、ストレージ、通信/ネットワーク、端末が高性能化/小型化し、クラウド化、ソフト開発手法、AI技術なども進化してきた。直近では生成AIが登場し、破壊的なゲームチェンジャーとして、先進企業の利活用事例を紹介した。これらは産業構造を変え、これからもダイナミックな変化が続いていくことを前提に、50年のキャリアに挑戦して欲しい。生涯、勉強を続けることも重要だ。
- 一方で、ある調査によるとシステム開発は半数が失敗するなど、プロジェクトマネジメントやシステムのレガシー化との戦いは、時代を超えて変わらないチャレンジである。また、日本のIT産業は、多重請負構造など負の側面を抱えている。いずれにせよ、最初に仕事の基礎をしっかりと身につけることが重要である。
- 過去20年を振り返ると日本はIT投資が伸び悩み「IT後進国」だが、ユーザ企業はより戦略的にITやデジタル化に取り組み、グローバル経営を進化させて欲しい。ITベンダーも各社がグローバル市場への挑戦を進めているが、真のグローバル企業に向けては道半ばである。一方で、新興国においても、インドの生体認証、ルワンダのドローン活用、ケニアのモバイルバンキングなどリープフロッグのイノベーション事例もあり、こうした挑戦にも目を向けて欲しい。

3. 質疑応答・感想

最後に、ジェフ・トンプソンの「小枝にしばられたゾウ」を紹介し、人間の可能性は無限にあり、開花を妨げているのは「小枝」にすぎない、ぜひ夢をかなえてほしいとのメッセージで締め括った。学生全員から講義の感想を提出して頂いたが、約230名の目指すキャリア、関心テーマ、就職活動への取り組み度合いなどが異なる中で、一人ひとりが自分ごととして真剣に考えて貰えたことをとてもうれしく感じた。講義が盛りだくさんで消化不良にならないか心配をしていたが、話した内容のほぼ全てが誰かに響いた様で、多様な関心に応えられて良かったとも感じた。「変化に追われるのではなく、自ら変化を作っていこう」にも前向きな感想が寄せられ、将来の日本の変化を担う人材が育っていくことを期待する。